



『(仮称) ナゴヤ・グランドビジョン』策定の提言

※「ナゴヤ」: ここでは、グレーター・ナゴヤ・イニシアティブにおける圏域を想定する

平成 25 年 6 月 名古屋の街づくりを考える会



目 的

社会と経済のグローバル化が言われて久しい。1610年の開府以降、武家文化、町人文化、モノづくり文化が開花し、戦災復興を経て、産業と文化が調和した大都市として発展・成長を遂げてきた名古屋であるが、世界との都市間競争は今後益々激しくなるものと予想されている。そのような中で、2009年9月に「(仮称)名古屋グランドビジョン策定の提言」を作成し、長期的視点に立ったビジョン構築の必要性を提言させていただいた。

その後、リニア中央新幹線の東京―名古屋間の開業予定が2027年に決定し、また3.11東日本大震災以降、南海トラフ三連動地震による被害想定等が大きく見直され、特に愛知県は全国でも最大級の被害が予想されるなど、その後の環境は激変してきている。このような変化の中で、名古屋が国際社会の中で今後さらに大きく飛躍していくためには、世界との都市間競争の中で選ばれ・生き残り、世界中から多様な人々をひきつける魅力溢れる都市とならねばならないことを改めて強く申し上げたい。その実現のためには、官民が共有できる成長戦略「ナゴヤ・グランドビジョン」を今すぐ構築し、行政・議会・市民・民間が一丸となり、共通の目標に向かって取り組んでいく必要がある。

こうした考えを共有する有志が再び集まり、さらに学識経験者と経済団体のトップを加えて「名古屋の街づくりを考える会」を設立し、名古屋のあるべき姿について今日まで意見交換や議論を重ねてきた。

今回とりまとめた提言書は、「ナゴヤ・グランドビジョン」策定のために必要な視点と、ビジョンの実現化方策について、私たちなりに考察したことをお示しするものである。

この提言書が、名古屋の今後の成長戦略「ナゴヤ・グランドビジョン」策定の呼び水となり、名古屋の大いなる飛躍への第一歩となれば幸いである。

平成25年6月

名古屋の街づくりを考える会

<委員長>

奥野 信宏 中京大学教授

<副委員長>

高橋 治朗 名古屋商工会議所 会頭

三田 敏雄 一般社団法人中部経済連合会 会長

<委員(学識経験者)>

山田 雅雄 中部大学客員教授

森川 高行 名古屋大学大学院教授

福和 伸夫 名古屋大学教授

山田 明 名古屋市立大学大学院教授

<委員(民間企業・団体)>

大澤 和宏 名古屋テレビ塔株式会社 代表取締役社長

大森 邦彦 株式会社ナゴヤキャッスル 相談役

神尾 隆 東和不動産株式会社 相談役

河津 市三 株式会社中日新聞社 取締役編集局長

小林 宏之 公益財団法人中部圏社会経済研究所 代表理事

小堀 徹 株式会社日建設計 常務執行役員

松林 正之 一般社団法人日本プロジェクト産業協議会中部委員会 主席研究員

細谷 孝利 名古屋商工会議所 専務理事

伊藤 範久 一般社団法人中部経済連合会 専務理事

先進性・先見性を礎とした持続性により生き続けてきた『ナゴヤ』

科学技術のトップランナー



自動車

精密機器



航空機

ファインセラミックス 工作機械



鉄道車両



自動織機

ゼロ戦



合板 楽器



陶磁器・繊維



機械工業
(からくり・和時計)



木材加工
(建具・家具・仏壇・仏具)

時代と共に発展してきた城下町



名古屋駅周辺開発



テレビ塔
(テレビ電波塔)



久屋大通・若宮大通
(幅員 100m防災道路)



中川運河
(水運物流)



堀川
(資材運搬)



新堀川
(洪水・下水処理対策)



名古屋港
金城ふ頭



1610年開府・清州越し
(防災的観点からの高台移転)

環境・住みやすさ

2014年11月



ESD ユネスコ会議
(持続発展教育)



COP10 (生物多様性)



愛・地球博



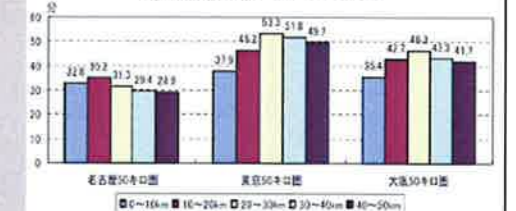
藤前干潟
(ゴミ減量の先進)



恵まれた自然環境
(おいしい水・豊富な緑)

母都市ナゴヤ

大都市圏別通勤時間(平成15年)



ゆとりある暮らし
(居住コスト・通勤時間)



武家文化の継承
(茶室)



充実した
公共交通ネットワーク

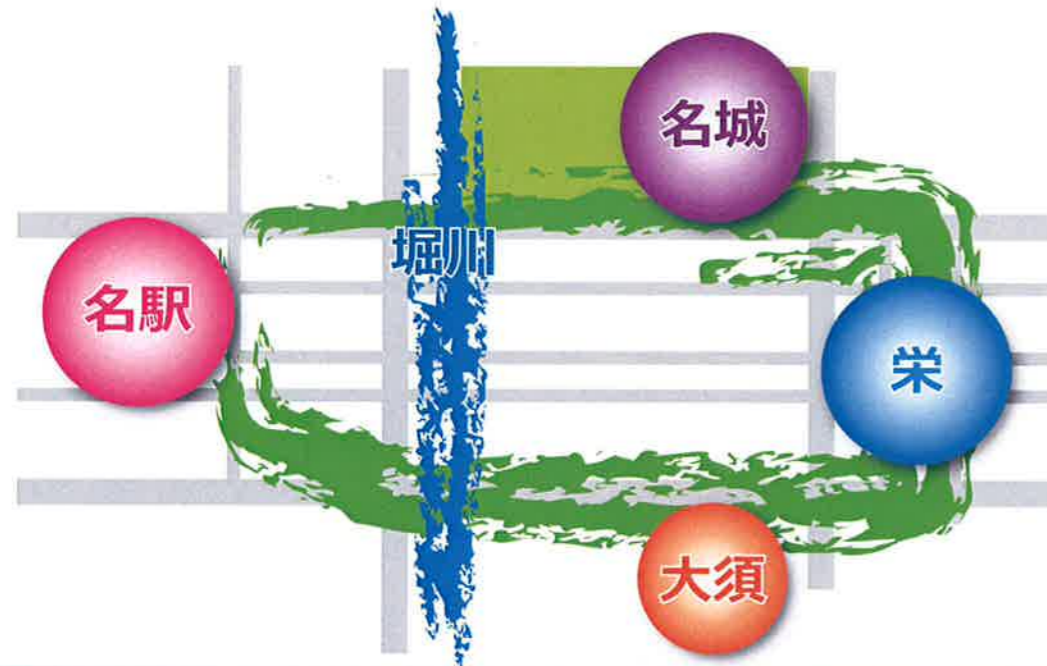


身近なレジャー体験

これからの名古屋のまちづくりの前提となる視点

持続可能な街づくり

- ・産業・ビジネスの継続的な発展（ものづくり、その次の基幹産業）
- ・南海トラフ巨大地震への対策（防災・減災）
- ・環境施策の推進（名古屋市環境3戦略、水と緑の拠点）



広域連携の中心として力を発揮する名古屋

- ・ナゴヤの成長が、日本経済の成長エンジンになる
- ・鉄道・空港・港湾による陸海空の広域交通ネットワーク
- ・リニア中央新幹線開業により、拠点性がさらに高まる
- ・観光のPR（昇龍道プロジェクト、体験・産業観光、歴史・文化）



前回 2009 年の提言以降

リニア中央新幹線の計画公表や南海トラフ巨大地震の被害予想など、大きな環境変化がある中で、
今こそ、官・学・民の知恵と資金を結集したまちづくりが必要。

そのためには・・・

提言Ⅰ 『(仮称) ナゴヤ・グランドビジョン』の策定

- ・官民（民間・市民）が将来像を共有し、それを実現していくための、時間軸をもった成長戦略
- ・限られた時間と資金の中で最大の効果を実現するための、“選択と集中”の発想が必須

提言Ⅱ 官民連携による実現化方策の構築

- ・市の主導によるビジョン策定と、そのための市の体制づくり
- ・市のカウンターパートとしての民間の役割（世論形成、進捗を見守る）を果たすための仕組みづくり

提言Ⅰ 「(仮称)ナゴヤ・グランドビジョン」の策定

時間軸をもった成長戦略を、“今こそ” つくる必要がある

2013年

14年

2027年

リニア中央新幹線開通

2050年

2100年

初動期にて具体策の明確化

提言Ⅰ「(仮称)ナゴヤ・グランドビジョン」の策定

リニアインパクトを最大化するため、
中短期に取り組むべき「リーディングプロジェクト」

重点施策1, 2のうち、
中長期に取り組むべき「プロジェクト」

重点施策1

『名古屋駅周辺地区』

誰もが来たくなる最先端のまちに！

重点施策2

『栄(名城～久屋大通～大須)』

歴史と現代が未来へ紡ぐハイブリッド都市に！

長期的視点で取り組む持続可能なまちづくり

先進性・先見性で創る次世代の『ナゴヤ』

重点施策1・2を核とし、

ウォーターフロント、東部丘陵地域なども含めナゴヤ全体の将来像を創る

ナゴヤの成長により日本経済が成長する
世界・国内から選ばれる持続可能な都市へ

1) 広域連携の視点を持つ

- ①ナゴヤ広域都市圏の中核都市としての名古屋
(愛知県だけの名古屋ではない)
- ②産業・防災・観光などを広域連携の視点で考える

2) 『先進性・先見性』を活かした持続可能なまちづくり

- ①清州越や100m道路を実現した都市防災のDNAを活かして、南海トラフ巨大地震に積極的に対応する安心・安全なまちに
- ②時代とともに発展してきた柔軟性を活かして、リニア開通の効果を最大化するまちづくり
- ③規制緩和や新しい仕組みの創造による都市再生への取組み
ex. 公園経営、地下街改造
- ④高い環境目標により水と緑豊かなナゴヤを創る

3) 先ず、都心部の名駅と栄の強化を先行する

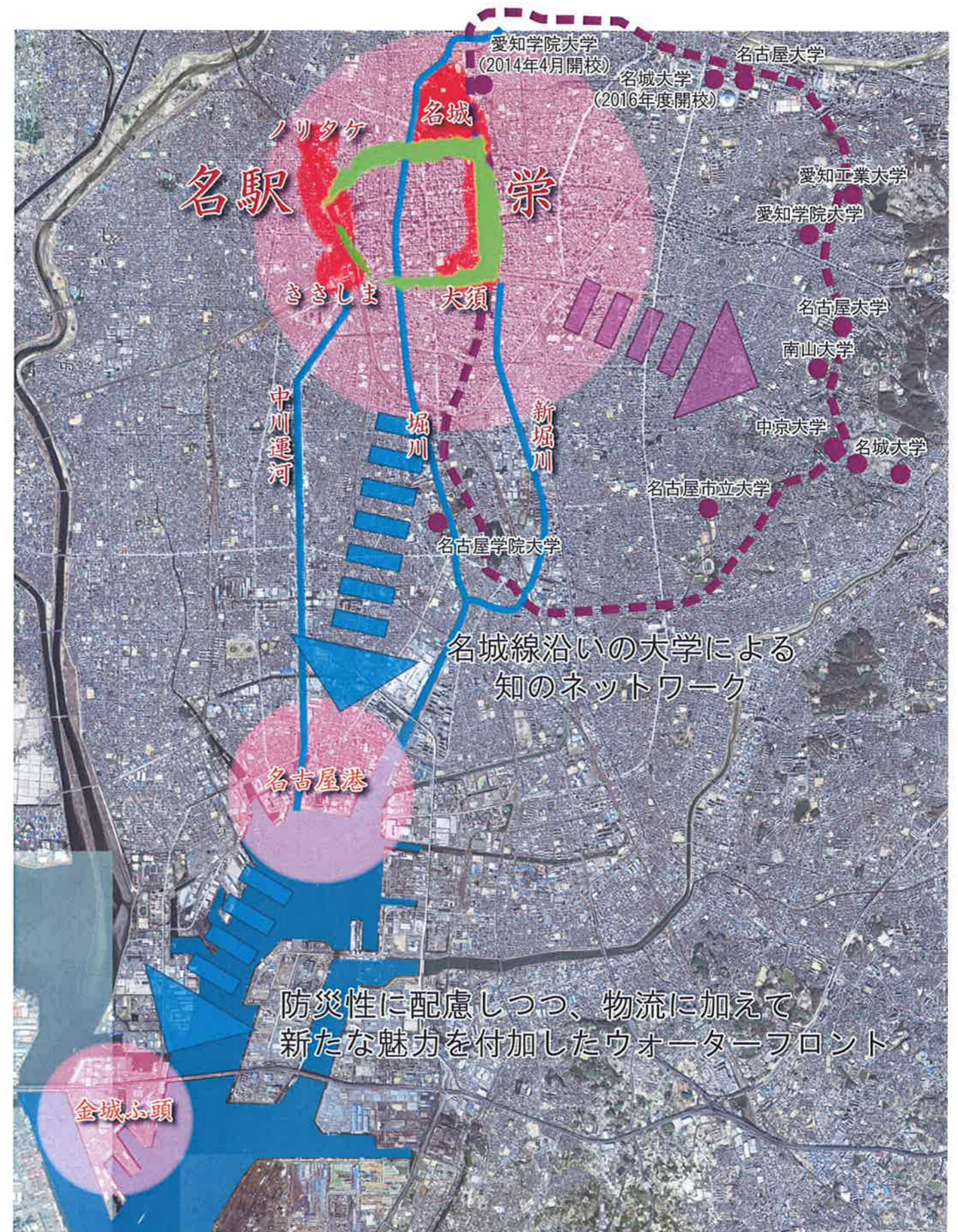
それぞれの特徴を活かし、相互補完しながら共に発展していく

キーワード	名 駅	栄
対象エリア	ノリタケ～名古屋駅～ささしま	名城～栄～大須 (熱田台地の上)
時間軸	最先端	歴史
生活リズム	便利・スピーディ	文化・居心地
賑わいのあり方	東京ナイズ	ナゴヤオリジナル
両立し相互補完することで、共に発展していく		

4) 周辺部は長期的視点でまちづくり

名駅・栄の魅力強化を、周辺部に波及させる

- ex.
- ・名城線沿線の大学の集積を活かした「知のネットワーク」づくり
 - ・防災性に配慮しつつ、物流に加えて、新たな魅力を付加したウォーターフロントのまちづくり etc.



重点施策1 『名古屋駅周辺地区』

誰もが来たくなる最先端のまちに！

1) 便利で安全な使いやすい 日本一の駅に

交通機関の多様性では日本屈指の集積度の名古屋駅を、日本一便利で使いやすく大改造する

- ①リニア・新幹線・空港アクセス等の広域高速交通と地域内交通機関が高度に集積し、利用者に分かりやすく優しい駅を創造
- ②鉄道に加えて、各都市・地域をきめ細やかに結ぶバスやタクシー、送迎車等にも便利で使いやすい駅に
- ③ナゴヤの玄関口に相応しい、高品質で風格のある駅空間

ベルリン中央駅



乗換えやすい 分かりやすい駅

2) 中部圏のゲートウェイから ゲートウェイシティへ

駅に人が集まるだけでなく、駅のあるまち全体に人が回遊し賑わうまちに

- ①駅前の道路空間を車中心から人中心とし、地下街の改造により、駅とまちをシームレスに繋ぐ空間を創出
- ②名古屋駅を中心に、ノリタケ・那古野～ささしまライブ24地区まで広がる回遊性の高いまち
- ③地下街を含むまちの安全・安心の向上

みなとみらい駅 (横浜)



駅から街へ回遊する仕掛けとなるガレリア・広場空間

泉ガーデン・六本木一丁目駅 (東京)



3) 先進的なナゴヤを ショーケース空間の創造

ナゴヤの玄関口に、この地域の特色を一目で見聞・体験できる常設の見本市空間を

- ①この地域の産業の特徴をまちの各所に表現
- ②例えば、自動車産業の最先端技術による次世代モビリティのショーケース空間を、特区制度を活用して実現
- ③日本初の地下街大改造により、安心・安全で快適な駅前空間を実現

上段左から Embrio, Translohr, L-Zero, Segway, i-Real



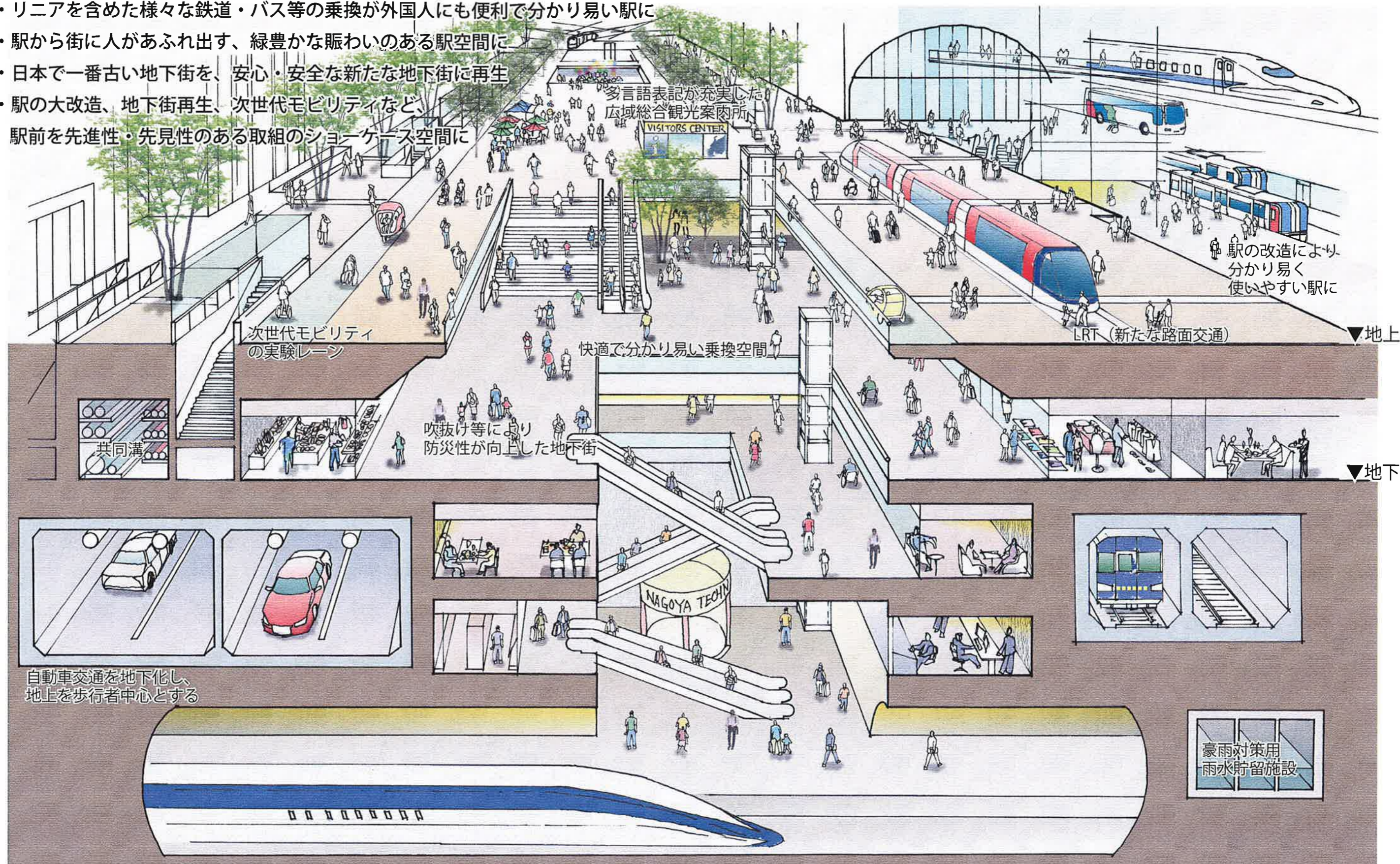
重点施策1 『名古屋駅周辺地区』

誰もが来たくなる最先端のまちに！

駅と道路と地下街の一体的な大改造により、

- ・リニアを含めた様々な鉄道・バス等の乗換が外国人にも便利で分かり易い駅に
- ・駅から街に人があふれ出す、緑豊かな賑わいのある駅空間に
- ・日本で一番古い地下街を、安心・安全な新たな地下街に再生
- ・駅の大改造、地下街再生、次世代モビリティなど、駅前を先進性・先見性のある取組のショーケース空間に

駅及び駅前空間のイメージ



駅の改造により
分かり易く
使いやすい駅に

LRT (新たな路面交通)

▼地上

快適で分かり易い乗換空間

吹抜け等により
防災性が向上した地下街

▼地下

自動車交通を地下化し、
地上を歩行者中心とする

豪雨対策用
雨水貯留施設

重点施策 2 『栄(名城~久屋大通~大須)』 歴史と現代が未来へ紡ぐハイブリッド都市に!

1) 都市防災の拠点として 三の丸地区を再整備

地震・水害に強い熱田台地上の三の丸地区にナゴヤ都市圏の防災拠点の核を形成

- ①“基幹的広域防災拠点”として、県域を越えた災害時の司令塔機能を担う
- ②国県市の官公庁施設や医療機関・宿泊施設・マスコミ・大学などが集積し活用可能
- ③既存経年官公庁施設の集約建替えにより、効率的な防災拠点の形成
- ④東京から40分の立地であることによる、首都被災時の代替機能



2) 名城公園~久屋大通公園を 世界に誇れる都心公園に再生

地域最大の地権者である名古屋市が先行して公園・道路を再整備し、栄再生の起爆剤に

- ①名古屋市が先行して公園・道路を再整備することで、世界に誇れる公園を創る
- ②テレビ塔の耐震化と再生により、まちの防災のシンボル空間を形成
- ③名城・本丸御殿、県庁舎・市庁舎などの歴史的資源の活用
- ④公園経営の概念導入と規制緩和により、民間活力による賑わいある公園を実現

ミレニアムパーク (シカゴ)



市民のための憩いやすいシンボリックな公園

3) 栄~大須は居心地の良い おもてなしのまち

路面店を中心とした商業集積により、歩いて楽しい、おもてなしのまちを強化する

- ①民間再開発をバックアップし、商業拠点機能の再生を図る
- ②市有地(栄角地)の積極的活用や連鎖型再開発による大型再開発の誘導
- ③官民が連携し、まちの賑わいや界隈性を高める
- ④新しい路面交通システムや歩行者天国の導入等により、歩いて楽しいまちづくり

タイムズスクエア (ニューヨーク)



路面店を中心とした界隈性のあるまち

重点施策2 『栄(名城~久屋大通~大須)』 歴史と現代が未来へ紡ぐハイブリッド都市に!

名城

三の丸

名古屋城

本丸御殿

新合同庁舎

市役所

県庁



本丸御殿復元

ホール機能・防災拠点の設置 行政機能を集約移転

県市本庁舎を文化機能へ転用 (周辺を公園化)

久屋大通公園

テレビ塔を耐震化し
防災と活性化のシンボルに

栄

大須

オアシス 21

商業店舗群

大須観音

LRT

LRT

久屋大通公園に防災対応のオープンスペース、
防災倉庫を整備平時は賑わい創出

一部道路を歩行者空間とし、オープンスペースを確保

LRT 等により名城～栄～大須、そして名駅への回遊性向上

長期的視点で取組む持続可能なまちづくり 先進性・先見性で創る次世代の『ナゴヤ』

長期的視点の取組み

中短期の取組み

名古屋駅周辺地区

誰もが来たくなる
最先端のまちに！

栄(名城~久屋大通~大須)

歴史と現代が未来へ紡ぐ
ハイブリッド都市に！

グローバルに成長・活躍する ものづくり産業 (科学技術のトップランナー)

自動車、航空・宇宙分野の
世界のトップランナーとして発展

先進性・先見性をもって
生まれる新産業

地域の産業の世界との交流拠点となる
コンベンションセンター



最強の防災・減災対策・首都機能の代替機能
(南海トラフ巨大地震・水害対策)

国内外から人が訪れる広域観光の拠点

物流拠点のウォーターフロント
(名古屋港・金城ふ頭)



最強のまちが 成長し続ける

(時代と共に発展してきた城下町)

次世代型モビリティで回遊するまち
(LRT、パーソナルモビリティなど)

水質が改善し、賑わうウォーターフロント
(堀川・新堀川・中川運河)

都心部が水と緑でつながる

ますます住みやすい 環境先進都市

(環境・住みやすさ)



ナゴヤの成長により日本経済が成長する
世界・国内から選ばれる持続可能な都市へ

着実な積み重ね

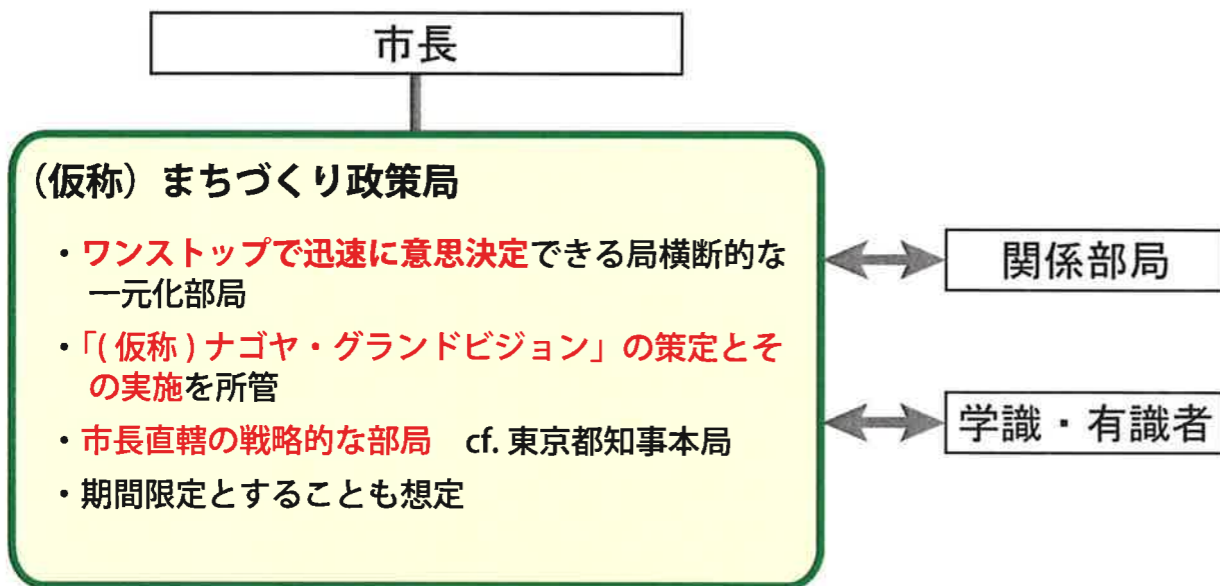
提言Ⅱ 官民連携による実現化方策の構築

名古屋市の役割

- (1) **時間軸もった成長戦略**を示す全体計画『グランドビジョン』の策定
※ 実現化に向けて、限られた時間と資金を効果的に使うための**“選択と集中”**の視点が重要
- (2) まちづくり活動を推進する活動資金・整備費の確保とその仕組みづくり
ex. TIF (Tax Increment Financing)、BID (Business Improvement District) など
- (3) **広域連携**の推進
- (4) **国との積極的なコミュニケーション**による、この地域のPRと新しい施策の要望

■その為の仕組み (要望)

名古屋市の戦略立案組織『(仮称)まちづくり政策局』の設置



民間(経済界)の役割

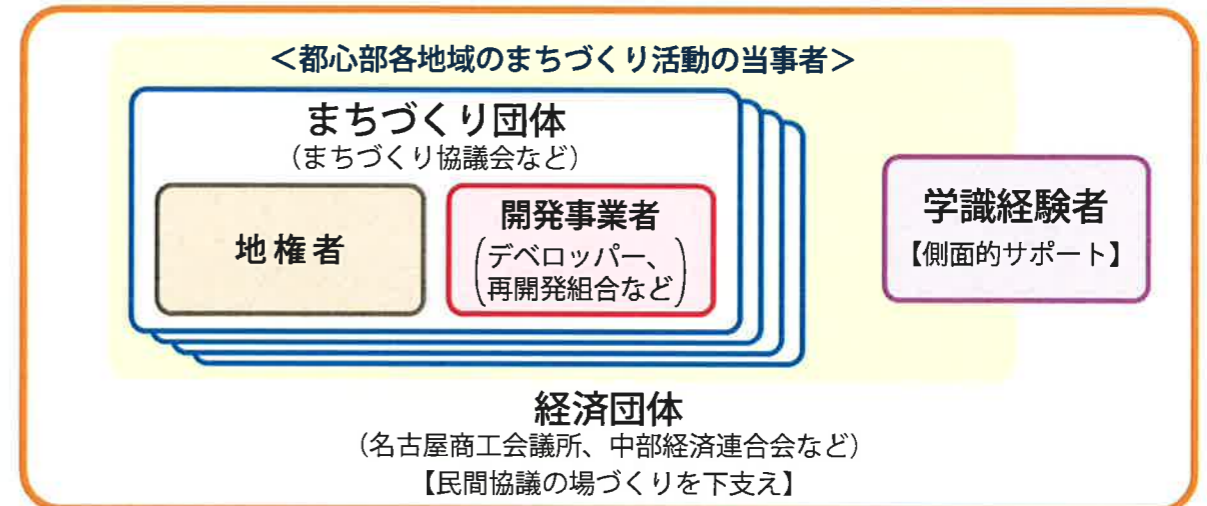
- (1) **市のカウンターパート**として、名古屋市と定期的なコミュニケーションを図れる**体制づくり**
- (2) **名古屋市の施策・判断を応援**するための“世論形成”
※ **民間・経済界として応援できるビジョン**であれば応援できる!
- (3) 民間の視点での各種**提案・提言**活動
- (4) 官と協働した、**国への積極的なアピール**や**戦略的なロビー活動**

■その為の仕組み

名古屋市の『(仮称)まちづくり政策局』の**カウンターパート**をつくる

名古屋市のカウンターパート イメージ図

- ・民間側の議論・意見集約のための場
- ・市の施策の応援、あるいはその進捗のチェック・提言
- ・国へのアピール、戦略的ロビー活動



協働・連携

官民連携プラットフォーム

官民が連携して、「(仮称)ナゴヤ・グランドビジョン」を語り、その実現を支援するための“場”の創出

まちづくり活動を推進する活動資金・整備金の確保とその仕組みづくり

民間主導によるまちづくりを支援する仕組みを検討する

【例1：国内での活動資金の確保とその仕組み事例】

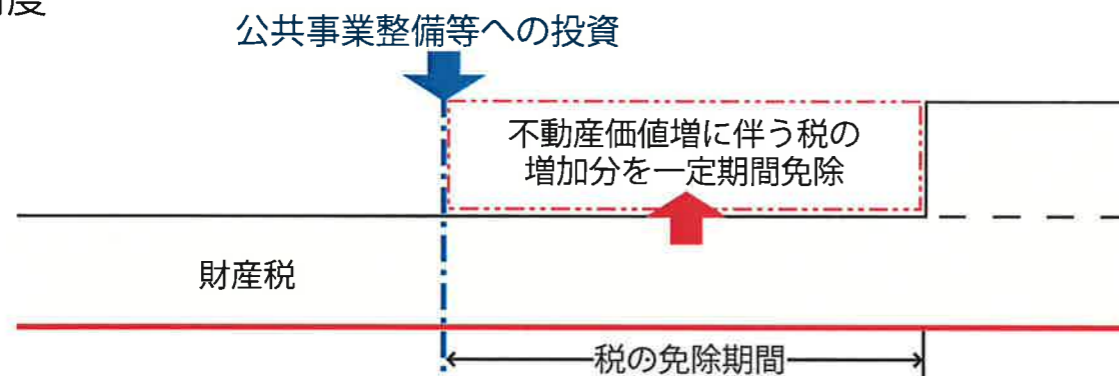
事例：NPO法人大丸有エリアマネジメント協会（東京）

- ・当該まちづくり協議会の活動資金は、その40%を参加企業団体からによる会費、寄付により確保されている。
- ・また、活動資金の60%は、年間を通じて実施される様々なイベントから得られる事業収入により賄われている。



【例2：TIF (Tax Increment Financing) 制度】

- ・公共事業整備、優良な民間開発を行った企業に対して、不動産価値増に伴う財産税の増加分を期間を定めて免除（減免）する制度



事例：ミレニアムパーク（シカゴ）



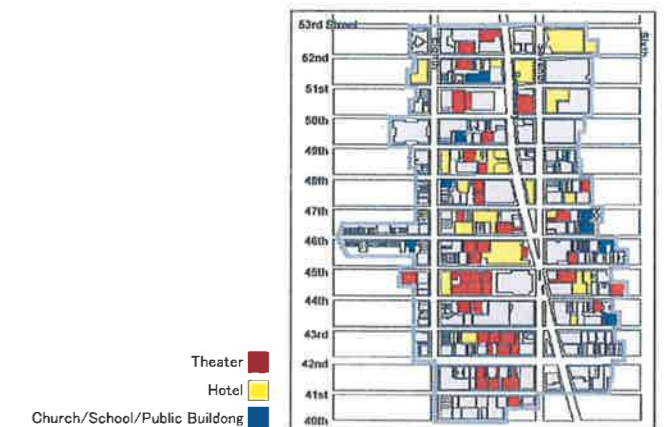
【例3：BID (Business Improvement District) 制度】

- ・都心部における民主導のまちづくり組織と地方自治体による、官民パートナーシップの地域活性化手法
- ・地方自治体が不動産所有者や商業者から目的税を徴収し、それをBID運営体に還元する受益者負担方式

BIDの主な活動内容

- | | |
|--------------|----------------|
| ①清掃及び維持・管理事業 | ⑥駐車場及び交通マネジメント |
| ②警備事業 | ⑦都市デザインの管理 |
| ③マーケティング事業 | ⑧社会事業 |
| ④企業誘致または引き留め | ⑨構想・戦略の作成 |
| ⑤公共空間における規制 | ⑩基盤整備事業 |

事例：タイムズスクエアBID (N.Y.)



名駅BIDのイメージ

- ・エリアマネジメント組織を設立し、地域美化、治安維持活動などによる公共空間の魅力アップをはかる

